

## 令和元年7月 26 日 市長定例記者会見 会見録

### 【司会】

それではただ今から、市長定例記者会見を開催いたします。先ほど、ご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。

本日の話題は2件です。市長よろしく申し上げます。

### 【市長】

はい、お待たせをいたしました。まずみなさんも気になっていることと思いますけれども、明日の第66回の安倍川花火大会の、直前まで情報収集にあたっていたのですけれども、とつても開催をしたいんです。一昨日も連合自治会の滝会長と、去年中止になっただけに無念の思いだったので、今年は何としても開催をしたいねという話をしたばかりなんですありますが、ご承知の通り台風6号の接近に伴い、気象状況は予断を許さないというのが現状であります。10時から大会本部実行委員会がこのことについて検討会をしております。11時半頃にはその結論が、私たち担当課の方にもたせるといことなので、ひょっとしたらこの記者会見の途中で情報が入ってくるかもしれませんので、よろしく願いをいたします。青空が今見えますしね、みなさんもぜひ祈ってください。よろしく願いいたします。

それから、これはお礼かたがた報告をいたしますが、市長選挙で掲げたマニフェストスタートダッシュの一つの起爆剤として、100日プログラムを掲げました。これは、行政計画にないものばかりです。そういう意味では、私が選挙で市民と約束をしたということで、ここに収まっているわけですが、私の当選以来、市の職員が当選の翌日から、大げさに言えばね、準備をしてくれて一昨日の市長ミーティング室の葵区を実行したことによって、全てこれを達成することができた。公約を達成することができたということ、皆さんにご報告をしたいと思っています。

これらの100日プログラムは単に100日以内に実施をしたということだけではなくて、今後の3次総の後半4年間の展開につながる取り組みとして、職員の意識の持ち方あるいは局間の連携、さらには民間の皆さんとの連携、官民連携等も視野に入れて加速をしていく、そんなきっかけになろうかと思っていますので、大変私はこのことを感謝をしたいと思ひますし、市の職員の頑張りに感謝をしたいと思ひますし、またやるぞーとこの4年間市民の皆さんには見ていてほしいなということもぜひお願いをしたいと思ひます。ですので、これをお持ちの市民の皆さんには4年間、保存版でチェックをしていただいて私が選挙戦訴えた一つ一つの公約が、そのマイクを通したその場限りの公約ではないということもぜひ確認をしてほしいなというふうに思ひます。

さて、そのことをまず申し上げて今日の話題に入りたいと思ひますが、記者の皆さんにはお手元に配布をしているこの資料をぜひご覧になっていただきたいと思ひます。

コミュニティ&ダイニングスペース茶木魚(ちゃきつと)、一番大きな写真のところに書いてある通り、食事だけじゃない、市役所食堂の概念を越えた新たな交流スペースが誕生します。これが触れ込

みであります。これもね、記者の皆さんにお伝えをしたいんですけども、私は大きな大まかなビジョン、方向性を、市長ですから伝えたわけです、示したわけです。それというのは現在の静岡庁舎、この建物が竣工したのは昭和 61 年です。ですから昭和そして平成の 30 年の 3 月まで稼働しましたので平成の時代、昭和の終わりから平成の時代を通して親しまれていた建物だったわけですね。ただ、設計の時には市の職員の福利厚生の一環としての職員ファーストだったわけですね。いわゆる職員食堂だったわけですね。皆さんの会社にも社員食堂ってあるかと思いますが建物の中にそういうスペースも必要だということで、職員ファーストで設計をされ、昼食の提供場所としての機能を果たしたわけですね。そればかりではなくて、一般の市民の方々も利用して結構ですよ、いいですよ、大変安くて美味しい食事を提供できますよということで、一般の市民の皆さんにも利用をさせていただいて親しまれていたわけですけども、ご存知の通り厨房機器の老朽化から改修をする必要があったわけでありまして。それで、令和という新しい時代を迎えるに、よしこれをリニューアルするときに今までの延長線上で職員食堂を作り変えるのではなくて、発想そのものを職員ファーストから市民ファーストに置き換えて、市民の目線でどんなスペースにしたらこれが喜んでもらえるかということで、議論を始めようということと呼びかけたわけでありまして。その呼びかけに応じて、これから 20 年 30 年この庁舎を働き場所として使う若手中堅の職員が、プロジェクトチームを組織して立ち上げてくれました。管財課がとりまとめをしてくれました。その若手職員を中心に率い、組織されたプロジェクトメンバーはそれぞれの職員が持っている様々なネットワークと問題意識を活かし、私が大まかに示したビジョン、方向性のもとに侃々諤々の議論をしました。正直、私が想定した以上のスペースが出来上がったなということを驚いています。職員にそういう議論の環境を提供できれば、こんなにもワクワクしながら前向きに、市民の皆さんにとってどうしたら喜んでもらえるスペースになるのかということで、次々と新しいアイデアが生まれそしてこのスペースに反映されるということを私は本当に、嬉しいという気持ちと驚いております。

公務員でありますからね、メディアの皆さん、例えば、公務員ですから仕方がないんですけども民間企業だったら報道されない、しかし、ミスはミス。事務事業のミスがあったら全てベタ記事でもなんでも報道されてしまいます。しかしそれを読んでいる市民の皆さんは何だ役人は、公務員は、市の職員はまたミスをしたのか、またミスをしたのか、だめだなーというような印象になってしまいます。事故を起こしても、やはり市の職員がこういうことを起こしたということは実名入りで入ってしまいます。それはやむを得ないんですけども、私は記者の皆さんに申し上げたいことは、一生懸命市民のためを思って頑張っている職員もたくさんいるということであります。それを報道してほしいということであります。そういうことによって、官民連携の基礎ができていく、つまり市の職員も頑張っているんだったらよし私たちも協力をしようという関係ができる、記者の皆さんは権力といいますか体制と言いますか、私と言いますか、とにかくジャーナリズムですから、市政を、市行政を監視をする、批判的に検証する、それは大事な役割かとは思いますが、しかし私は市民の代表としてここに来て、民間からここに来て、こういう職員の存在を大変、胸を張って皆さんに紹介をしたいなというふうに思いますので、ぜひ報道をお願いいたします。

そのプロジェクトチームのメンバーに今日は私呼びかけて、本来業務を離れてきてくれというふうに

お願いをいたしました。このスペースの考え方、コンセプト、そして名前を付けたこの茶木魚に込めた思いなど、私よりも直接プロジェクトのメンバーに自分たちの言葉で伝えてもらった方が、受け止めてもらえるかなと思いますので、少しマイクをお渡ししたいと思います。よろしく願いいたします。そんなに固くならなくていいからね。

#### 【水産漁港課】

はい、こんにちは。ただいま紹介にありましたプロジェクトチームのリーダーを務めました、水産漁港課のしずまえ振興係の山本と申します。今回は様々な部局の職員 12 人がプロジェクトチームを組んだのですが、最初に全員で統一した思いというのが、もはや市役所の食堂をはるかに超えた市民のための場所を作ろうという共通の概念のもとで、12 人のメンバーが当事者意識をもって検討をしまっていました。その中でも、誰よりも熱く、誰よりも動いて、誰よりも汗をかいたこちらの伊藤より、今回の基本コンセプトの方をご説明いたします。

#### 【廃棄物処理課】

はい、廃棄物処理課の伊藤です。よろしく願いいたします。

コンセプトにつきましてははですね、私たちいろいろと考えた中で、結果的にこの2つのコンセプトにたどり着いたということで、そのプロセスを少しお話させていただきたいと思います。今回のプロジェクトメンバーは入庁2年目の職員から子育て真っ盛りの職員、そして技術職員、中堅職員と多様なメンバーで構成されておりました。こんな食堂になったらいいのになとか、こうしてほしいなど、個々のそれぞれの想いもありましたが、根底にあるのは先ほど市長の方からお話にあった通り、市民ファースト、職員のためではなく、市民のために何ができるのか、市役所を訪れる皆さまにどうおもてなしができるのか、それを最優先に考えて作り上げました。これから市役所に求められる食堂は何か、一度拡散したアイデアを収縮させて4つのテーマを設けて、それぞれのグループで考えました。その4つのテーマをお話させていただきます。1つ目がオクシズ材を使ったほっとする温かい人と人のつながりの場、食で感じる四季折々の食材を使ったメニューの提案、食・情報・交流の場として静岡市ならではの販売ブースの設置、または劇場に付随して市役所食堂も食堂、静岡市ならではのワクワクワールド、この4つになります。

これらのテーマに沿っていろいろと考えてきましたが、やはりテーマの中には食を通じ、生産者や交流、様々な料理のアイデアの情報交換、この場に来れば人と人が気軽に交流できる空間づくり、しずまえ料理の提供、オクシズ材を使った机やイスなど、静岡市ならではの情報発信、わくわく、どきどき、いつ来ても何かがある場所など、さまざまな要素を踏まえておまして、プロジェクトではコンセプトとして交流の場、情報発信の場、この2つのコンセプトを導き出し、プロジェクトで進めていきました。コンセプトについては以上となります。

この2つのコンセプトを導きだし、プロジェクトで進めていきました。コンセプトについては以上となります。

#### 【水産漁港課】

この 12 人のプロジェクトメンバーは、チームとしての検討のほかにもですね、一人一人がいろいろな活動をしております。

そんな活動の 1 人としてこちらの建築指導課の高橋よりですね、活動のひとつをご紹介します。

#### 【建築指導課】

建築指導課の高橋です。私はプロジェクトチームの皆さんとはもちろんなんですが、建築指導課の先輩方とも意見交換を重ねまして、完成イメージとしてこちらの模型を作成しました。建築指導課の先輩方は、とてもこのプロジェクトに協力的でして、皆さん全力で力を貸していただきました。

#### 【水産漁港課】

あの今日ここに来れなかったプロジェクトメンバーも、本当に色々な活動を重ねております。とはいってもこの 12 人のみならず、職員の皆様、市民の皆様、本当に多くの多くの方々関わって完成したわけなんですけども、最後にですね、このネーミング「茶木魚」という名前が決まった経緯について再びですね、一番汗をかいた伊藤から紹介いたします。

#### 【廃棄物処理課】

はいじゃあ名前、ネーミングについてちょっとお話をさせていただきます。

従来の食事提供ではなく、もはや市役所食堂の枠を超えた、市民の憩いの場として使っていく場所ということからですね、職員やプロジェクトメンバーだけでネーミングを決めるのはどうかな、という意見がありまして、やはりここは市民も巻き込んでネーミングを決めよう、ということになりました。

5 月 31 日、完成したばかりのこの食堂でですね、産官学連携してネーミングを決める「ポジティブミーティング」を開催しました。

当日は、民間から 30 名、学生 10 名、職員 30 名の 70 名で、300 を超えるネーミングアイデアの中から、どれも素晴らしいものだったんですけど、その中から最終的に 3 つの候補に絞りまして、プロジェクトメンバーで色々と検討した中、「茶木魚」という名前に決定させていただきました。

お手持ちの資料の中にですね、最終ページになるかと思いますが、当日の様子があるかと思えます。写真を見ていただくと分かると思うんですけど、ほんと当日会った知らない人同士が、楽しそうにワイワイしてる、がやがやしてる様子がちょっと見て取れるかと思えます。

参加している皆さんが、誰もがここに来たい、来てみたい、という声が、やはり民間の方が多く聞かれました。この食堂のコンセプトにぴったりで、交流の場として十分に活用できるという、私たちプロジェクトメンバーは確信いたしました。

#### 【水産漁港課】

はい。プロジェクトチームからの報告は以上となりますが、ここから皆様のお力でその魂を込めてい

ってほしいなど、考えております。以上です。

#### 【市長】

はい。山本輝君はじめプロジェクトチームのみなさん。ありがとうございました。  
あえて身内ですので拍手は送りません。

アセットマネジメントという立場からも、市役所の中にこういうスペースを、本来業務プラスアルファの時間を使って、若手の職員と市民の皆さんと官民連携で、話し合いの場を作って完成をさせたというのは、ユニークな事例になろうかと思えます。全国的にも、私これ情報発信をしていきたいなというふうに思っています。

交流スペースではね、例えばエスパルス試合の時パブリックビューイングで、ここでみんなでワイワイガヤガヤ、夜は規制緩和もして、多少ビールも出して、それで気持ち一つになるようなね、そんなスポーツ観戦を交流としてできると思うし、他にもいろんないろんな活用方法あろうと思えます。ですからここまでやりましたけど、完成形ではなくて、さらに市民の皆さんがこういった使い方があるんじゃないか、変わった使い方もあるんじゃないかということ、またご意見を出してもらって、どんどんどんどんこの「茶木魚」、成長をさせていきたいなあと、市民の皆さんとともに 育てていきたいな、というふうにも思っておりますので、ぜひご協力お願いをしたいと思えます。

なお 8 月の 5 日月曜日に、市民の皆さん、これまでご尽力いただきました子育て団体をはじめ、ご関係の皆さんをお招きして、オープン式典を開催したいと思っております。それに先立って本日午後 1 時半から、市政記者クラブの所属の記者の皆さんには「内覧会」といいますが、いち早く現場をご覧いただく機会を設けておりますので、お時間がある記者の皆さんは、是非ご覧になっていただきたいと思えます。

締めの言葉としてここに書いてあるのは、静岡市の新たな交流空間「コミュニティ&ダイニングスペース茶木魚」にご期待ください。ということであります。

二つ目の話題に進みます。エネルギーの地産地消さらに進めます。ということであります。

これは少し専門的な話になるので、事前に記者の皆さんにはレクチャーを担当課からしたということも伺っております。

静岡市では平成 29 年度から、電力売買の一括契約と民間投資よって、小中学校に設置した蓄電池を活用する、エネルギーの地産地消事業を進めています。具体的には庁舎や市立病院、小中学校など 279 の市の公共施設が、個別に契約するのではなく、鈴与商事さんと一括して契約をして、電力を調達する取り組みであります。その電力には、まず西ヶ谷清掃工場と、沼上清掃工場が発電した電力を当て、不足分を他の発電所などから調達してもらっている仕組みであります。

この清掃工場からの地産電力は、市が消費する電力の約半分にあたります。静岡市としては、地産電力の割合を、環境保全という立場からも、高めたいと考えておりました。清掃工場の発電は、市民の皆さんが出したゴミを燃やす際に発生する熱を利用していますので、火力発電などに比べ、

環境にやさしい電力であります。このような環境にやさしい地産電力を、エネルギーの地産地消事業に、今後さらにどう組み込んでいくのか、事業の受託者と検討を進めてきました。そこで着目したのが、固定価格買取期間が満了する電力の活用であります。

これまでは住宅用の太陽光発電の余剰電力を、10年間は法定で電力会社が買い取るという仕組みになっていましたが、この10月で買い取りの契約期間が満了となるものが発生します。買取期間が満了となった家庭は、自分たちでこの余った余剰電力の売却先を選択しなければなりません。一方で、静岡市では子どもたちの健康を守るために全ての小中学校でエアコンの設置を進めており、エアコンが稼働することになれば、これまで以上に消費電力が増えることが見込まれます。そこでwin-winの関係をつくっていく。静岡市内の家庭から発生する余剰電力を小中学校の電力として、鈴与商事さんが買い取り、子どもたちのために使わせていただく仕組みを進めていくことにより、エネルギーの地産地消事業における、地産電力量を官民連携で増やしていこうという野心的な取り組みであります。これはご存知の通り、SDGsのまちづくりという、SDGs未来都市という認定を受けている静岡市にとっても、その方向性に沿った政策であります。配布の資料もご覧をいただきたいと思いますが、例えば本事業にご協力いただける家庭には、そのことを明示するステッカーをお配りすることにより、市民の皆さんの環境にやさしい、エコな暮らしをしているというアピールにもなりますし、参画意識を高めるそんな機会にもなるでしょう。さらに今回の取り組みを子供たちにしっかりと伝えることや、エアコンを使える時間や温度設定などを、子どもたち自身にも考えさせることを通じて、子どもたちがエネルギーや地球温暖化などの環境問題について考えるきっかけとしていくなど、環境教育の一層の充実にもつなげていきます。

昔、「20世紀に間に合いました」というキャッチコピーでプリウスが登場したとき、売れるかな、ちょっと高いよな、というふうな想定もあったんですが、意外と市民・国民の皆さんプリウス買いましたよね。それがやっぱりそのエコ意識が高いということをも自分自身がアピールするという意味でも、何となくハイブリッドのプリウスに乗っているというのはカッコいいというイメージがあったかと思います。それと同じであります。ステッカーを自分の家庭に貼ることで、自分のうちはこういう形で小中学校に電力を、太陽光発電で発生した余剰電力をこういうふうに活用していますよということをアピールする機会を設けて、そういうSDGsに適ったエコな暮らしを実践をしているというような仕組みを作っていくということであります。これは、ビジネスを超えた公共意識が無ければ出来ないわけではありますが、ぜひそここのところも注目をしていただきたいと思います。静岡市はエネルギーの地産地消事業のさらなる発展を図ることによって、こういう仕組みを作ったと、そしてSDGsの推進に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いを致します。以上です。

#### 【司会】

ここで1つ緊急の情報が入りましたので、市長の方からまたお願いしたいと思います。

#### 【市長】

残念な報告です。ただいま安倍川花火大会本部から花火大会の開催についての検討の報告が入

りました。第 66 回安倍川花火大会は台風 6 号による暴風が予想されるため中止を決定したということです。まず、安心安全の確保をしなければいけないという最優先の備えに対して、また、河川の安全やそれに取り組む作業員の立場・安全を考えての判断だと思います。詳細につきましては、後ほど所管課から報告させます。花火大会を楽しみにしていた多くの市民の皆さんには大変申し訳なく思っております。ご理解いただきますようお願いいたします。以上です。

#### 【司会】

できましたら、ただいまの件、報道のお力で早々に周知していただければと思います。宜しくお願いします。それでは、先ほどの発表項目につきまして、ご質問がありましたらお受けしたいと思いますが、ご質問の際社名やお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。それでは幹事社質問に移ります。幹事社さん、よろしくお願い致します。

【第一テレビ】幹事社質問させていただきます静岡第一テレビです。よろしくお願いします。まず2点、お伺いさせていただきます。1つ目が、21日に投開票された参議院選挙について質問させていただきます。現職2人が再選を決めた結果について、また投票率低迷について所感をお聞かせください。2点目に、静岡大学と浜松医科大学の再編についてお伺いさせていただきます。大学再編について、市議会の中でも反対の声が上がっています。改めて市長のお考えをお聞かせください。以上2点になります。

#### 【市長】

はい、大きく2つ質問をいただきました。まずひとつ目の参議院選のことにつきましては、選挙の結果は結果として、私が残念だったのは投票率が思うように伸びなかったということでもあります。市の選挙管理委員会を所管する立場からしても、前回の投票率 52.3%、これを 4.04 ポイント下回ってしまった 48.29%、これ三区の平均ですね、に終わってしまったということが残念でありました。選挙の1票は言うまでもなく先人たちが命がけで獲得してきた私たち国民の権利であります。ぜひ市民の皆さんも、投票所に足を運んでいただきたいということを訴え続けたいと思います。また一方で、その参議院の選挙がなかなか私たちにとって生活に身近なものにならなかったということもありましょうし、また若い方々が、まあ 18 歳 19 歳も今回選挙に初めて参議院選挙に参加をしたわけですが、聞いてみると、あの比例代表制ね。皆さんも投票所に行って書く時に感じたかも知れませんが、あれ、私たちの立場だってわかんないですね。あれだけの候補者の名前が書いてあって、どれが自分にとって意見を代弁してくれる候補者さんなのかね、政党からずっと横並びでいろんな固有名詞が書いてありますが、それを考えるともう少しわかりやすい選挙制度にならないのかなというような印象はもちました。以上です。2つ目の大学のことについてであります。

2つ目の大学のことについてであります。

これは、私たち市行政でも、あるいは市議会でも、今、議論が進んでいるところであります。その中で、やはり、私が石井学長にお願いをしたいことは2つ。

ひとつは、静岡キャンパスの将来ビジョン、それを私たちがワクワクするような、これならいいねと思えるような、そんなビジョンというものをちゃんと提示してほしいなというふうに思います。

それは、静岡大学のみならず、大局的に見ればこれから国公立の大学の再編ということも視野になってくるでしょう。石井学長と県立大学の鬼頭学長もこのあたりで、ずいぶん議論を進めているということでもありますし、全国の中では国立とこの垣根を越えた再編の問題もあるということでもあります。そんな大きな視点から、これからの静岡大学をどうしていくかというビジョンというものを示していただきたいというふうにお願いをいたします。

県立大学には薬学部もある、あるいは食品衛生学科もある。静岡大学には農学部もある。いろんな大学を越えた連携というものができると、そこで学びたいという市民も多くいるというふうに私は感じています。そういう意味では、高等教育のあり方、検討委員会も静岡市で設置もしてきましたので、そんな流れの中でリカレント教育ということもありますので、ぜひ、まずもって静岡大学の大きなビジョンというものを示していただきたい。それがないと協力のしようがないというのが実感であります。ふたつ目は、その下でちゃんと学内、市民に説明をしてほしい。説明責任をまだ果たしていないということを感じています。私たち市行政に対しても、市議会に対しても、市民の皆さんに対しても、学外に対してはもちろんですけれども、学内でまだまだコンセンサス、十分な説明がいき渡っているとは思えません。

石井学長も人文社会科学部のご出身であり、教授でありますので、ちゃんとそこを、これは外からの立場でありますけれども、ちゃんと説明をしていき、そして、その上で、よし、これを学外にも、市民の皆さんにも伝えて、知の財産として静岡大学、これからも市民の皆さんに身近に感じられてもらうような、そんな説明を、説明責任を果たしていただきたいというふうに思います。以上です。

#### 【静岡第一テレビ】

追加質問させていたければと思います。

2点目の大学の再編についてなんですけれども、先ほどの協力のしようがないということでお話しされましたけれども、この点、賛成、反対とか、そういうところについてはいかがでしょうか。

#### 【市長】

私の答えをちゃんと理解をした上での質問ですか。

#### 【静岡第一テレビ】

今、要はまだ説明が、まだ不十分であるという話だと思うんですけれども、その中で今はそこについては協力のしようがないという・・・



【市長】

そうですね。だからそのビジョンというものを、そして学内もコンセンサス作り、それが終わった後の話になろうかと思えますね。

【静岡第一テレビ】

そうすると、今、まだ説明が不十分だという点の中で・・・

【市長】

学内においてもね。

【静岡第一テレビ】

はい、その中で市長として、この再編について、なかなか私たちからしてみると、浜松地区の方が、メリットが強いようなふうにも感じたりはするんですけども、何かこう、今の、現在で静岡市としてみて、静岡大学のメリットとかデメリットって何かしら感じることはありますか。

それともまだ不十分で・・・

【市長】

やっぱり静岡市民が、わくわくするようなビジョンは、ぜひ示していただきたいなということを、いい機会だと思うんですね。大きく全国的に大学の再編が進んでいる、いい節目だと思います。絶好のチャンスだと思うんです。大学にとってもね、もっと市民にこう身近に感じてもらえるような機会、またこれから国際化に静岡市の街づくりはSDGsとね、関連付けて取り組んでいるという、舵を切っているわけですから。それにふさわしい大学としてね、アジアを中心とした留学生がもっともっとああこういう内容だったらば、もっと静岡大学に留学したいねと。東京の大学じゃなくて、静岡大学に行きたいねと、そういったね、メリットというか、そういったワクワクしたような、そして市民もそれを迎え入れるようなね、そんな大学としているんな、これからアイデアがあらうかと思えますけどね。それをあまりにも、何て言うかな、行政のスケジュールとは言わないですけども、拙速に進めるべきではないというふうに思っています。

【静岡第一テレビ】

続けてになってすいません。今の説明の中では、そうすると市長としてはまだメリットとしてはあまり感じる場所はない。

【市長】

はい。

【静岡第一テレビ】

ということよろしいですか。

【市長】

はい。

【静岡第一テレビ】

ありがとうございます。

その他各社さん、幹事社質問の中で質問がある社はお願いいたします。

【司会】

よろしいですね。はい、ありがとうございます。

【静岡第一テレビ】

では、今の幹事社質問以外で、質問がある社はお願いいたします。

【司会】

はい、静岡朝日テレビさん、どうぞ。

【静岡朝日テレビ】

リニアの件で質問させていただきたいんですけども、他県の知事がいろいろ発言したりとか、あるいはJRが会見で地権者との交渉がうまくいってないですとか、全国的に注目が高まっていると思います。JRと県が、協議が難航していることについて、市長はいかにお考えでしょうか。

【市長】

すでにね、何回もお話しをしていますけれども、私としては早く静岡県とJR東海さんが合意に達することを強く望んでいます。

【静岡朝日テレビ】

なんか世間の雰囲気として、なんとなく静岡県のせいで遅れてるみたいな雰囲気もできているんですけど、そこはどうですか。

【市長】

交渉事ですからね、やはり 2027 年に開通をするという 50 年来のね、金子社長が背負っているもの、そして、水の保全と大井川流域の懸念をする市民、県民の皆さんというものを背負っている県と、どこで折り合うかということが、リーダーの一つの大事な仕事だというふうに思いますので、その歩み

寄りに期待をしたいと思います。

**【静岡朝日テレビ】**

ありがとうございました。

**【司会】**

はい、他にいかがでしょうか。

よろしいですか、はい、ありがとうございました。

それでは、以上です、本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回、8月6日火曜日の午前11時からとなりますので、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。